あつぎ観光ボランティアガイド協会ニュース

七沢森林公園（撮影 阿部会員）

令和３年 ４月号 Vol. 204
（2021 年）

発行：令和３年４月 19 日

あつぎ観光ボランティアガイド協会
ホームページ　http://atugikanvola.sakura.ne.jp
メールアドレス　atugikanvola@yahoo.co.jp

発行責任者　会長　森島 誠　　編集担当者　阿部 啓冊

令和２年度ガイド養成講座
行事区分：会員研修
日　　時：３月 25 日、26 日、27 日
場　　所：アミューあつぎ、保健福祉センター
参 加 者：受講者　５名、会員　６名

今年度のガイド養成講座は、当初３月初めに計画したところコロナ感染防止の緊急事態宣言が発せられたため、３月 25 日・26 日・27 日に日程変更して開催されました。

延期の影響で、参加人数も減少しましたが、応募者３名と前回の講座以降に入会した会員も加えて、５名の受講生で行われました。

厚木市担当課より市の観光についての講演をしていただき、当会の概要説明、歴史探訪・ハイキングの各部門活動状況を説明、最後に野外学習と座談会を実施しました。短期間ながら充実した養成講座を受講されて、入会手続きを行い終了しました。

新しいメンバー加入も決まり、今後の活躍が期待されます。

（森島誠　記）

会員投稿

≪越後三山　縦走記≫

西出健一

八海山(1707m)・中ノ岳(2085m)・越後駒ヶ岳(2003m)
平成２６（２０１４）年8月4日（月）～7日（木）　３泊４日

まえがき

私は山に行くと必ず記録を残します。次回の参考にしたり、時には読み返して思い出に浸ります。今回、投稿依頼があり、その一つを縮小して掲載して頂きました。

本　　文

以前より、越後三山は登ってみたい山だった。ただ、ガイドブックには、「越後三山は標高こそ中級山岳並みであるが、馬蹄形に広がる豪快な山容の三山縦走は、八海山、中ノ岳間の比高も高く険しいため、第一級の健脚向きコースである。」とあり、尻込みしたくなる様な説明であったが、いつもの様に思い切って出掛けた。

１日目

「本厚木―新宿―大宮―（新幹線）―越後湯沢―（在来線）―六日町―（バス）―山麓駅―（ロープウエーRW）―山頂駅～女人堂～八海山避難小屋」（―：交通機関利用、～：徒歩）

丁度昼頃に RW 山頂駅（標高 1121m）に着いて、ストレッチをやって出発した。今日は体力温存のために RW を使ったので楽である。ところが、荷物(12kg)が重いのか疲れてくる。平坦な尾根道を歩き、少し登りがあって、女人堂（1370m）に着いた。軽く休憩を取って歩き易い登山道を緩やかに登って行くのだが、荷物のせいで、結構疲れる。やっと 15 時前に八海山避難小屋（1650m）に到着である。でも、ほぼコースタイム（CT）の２時間 50 分だった。

有料の千本檜小屋は閉まっていたので、仕方なく避難小屋に入ったら誰もいなかった。久しぶりで一人ぼっちの夜である。登山道を少し戻った所に水場があり、夕食はこれで頂いた。夕方、表に出ると西の空が夕焼けで茜色に染まっていた。誰もいないし、やることもないので、寝袋を出して早めに就寝した。
夜、トイレに行く時に空を見ると、満天の星が輝いていた。

２日目

「八海山避難小屋～入道岳～五竜岳～オカメノゾキ～御月山～祓川～中ノ岳避難小屋」

今日は正念場であるが、いきなりつまずいた。予定の「3 時起床、4 時出発」が、目覚ましが鳴らず、「4:45 起床、5:45 出発」と２時間近く遅れた。急いで朝食を取り出発した。

今日は長丁場なので、八海山のハッ峰縦走は避けて迂回路を選ぶ。それでも危険個所や鎖・ハシゴがあって気が抜けない。ここで取り返しのつかない大失敗をした。荷物を軽くするために、2.5L の水の内、１L を捨ててしまったのだ。これが、この後、重大な危機を招く事になった。

入道岳(1778m)から中ノ岳の眺めは最高である。アップダウンの続く尾根道が遥か彼方まで続いている。山容を愛でながら、「俺、本当にあんな遠くまで、今日中に辿り着くのかな？」と、ちょっと不安が頭をよぎった。

荷物が重く、バランスを崩すと谷底という所があちこちにあり、体力と共に精神まで疲弊してくる。それでも、最鞍部のオカメノゾキ(1200m)にはコースタイム(CT)を少し遅

れて着いた。そして、いよいよ 600m の登り返しであるが、これまでに体力を使い果たしているので足が前に出なくなった。水の残量が少なくなり水分補給も十分できなくなった。誰も通らないので、上衣は全部脱いで、下着は全部下ろして、裸になって冷を取った。これは気持ちが良かった。そして、途中、体力回復のため、２回も昼寝をした。

炎天下で、尾根筋は日陰もない。太陽は容赦なく照りつける。時々、太陽が雲に隠れると、本当に有難い。3 日目の駒ノ小屋のおじさんが言っていたが、越後三山は高度が余り高くない（縦走路は標高 1500m 位）ので気温が高めで疲労が蓄積され、結構、遭難が多いという。その上、今回の最大の失敗である水不足が深刻になってきた。ちびちび飲んでいても、喉の渇きは一向に収まらない。昼飯のパンも喉を通らない。パンを食べるには水分が必要と認識を新たにした。

きつい登りや鎖場、片側谷底の道を慎重に登りながら、それでも何とか 1 時間 20 分遅れで、日が傾きかけた頃に御月山(1821m)に着いた。五竜岳～御月山が登山地図で難路を示す破線になっているが、ここまで来ると一安心、やっと峠を越えた感じである。ここからは緩やかな下りだし、もう少しで、水場だと思うと、少し元気が出て先を急いだ。

水場らしい所が見えて急いだら、足場が悪い所で足を踏み外し、１mほど下に背中から落下した。背中はリュックを背負っているので、何ともなかったが、岩が出っ張っていて、左臀部を思い切りぶつけた。そしてお尻を打った事も忘れて、「水、水、水」とばかりに、水場に行ったが少ししか流れていない。見ると、５m程上流に水溜りがあった。ペットボトルを沈めて水を汲み、一気に１L 以上を飲んだ。冷たくて、思わず、「この水、ビールより、うめえ！」と叫んでしまった。暗くて見えなかったが、雪渓が解けた水であろうか、ペットボトルが曇った。

美味しい水に酔いしれていると、日が陰ったからなのか、顔中に虫がたかってきて、耳や目に入ろうとする。いくら払っても無数に寄ってくる。それで暗くなってヘッドランプを出す時、家で草取りをやっている時のことを思い出して、タオルで頬被りしてみた。何とこれがばっちり効いて、これ以降、全く問題なかった。どうして？　夜で涼しいし、この後は快適な歩行ができた。

祓川の水場から中ノ岳山頂(2085m)まで、コースタイム（CT）1 時間 40 分、約 300m の登りである。これが何と、すいすいと登れるではないか。水分が補給でたからであろう。これまで登りは足取りも重く、休み休み登っていたのに、割合急な登りを一気に CT で避難小屋に着いた。19:45、２時間遅れで、お尻をうっているので無事とは言い難いが、何とか最大の難関を突破した。やっとの思いで尾根に出て、暗闇の中に小屋が見えた時は本当にうれしかった。

避難小屋は真っ暗なので、今日も一人かと思いきや、なんと１階には３人の先客が睡眠中であった。小さな声で「済みません」と言いながら入って、２階を覗くと誰もいない。これ幸いと２階に上がって、１人寂しく、夕食（菓子パン１個）を取り、静かに就寝した。でも、身体がほてっているのか、今日の出来事が走馬灯のように頭を駆け巡って、中々寝付かず熟睡できなかった。

３日目

「中ノ岳避難小屋～越後駒ヶ岳～駒ノ小屋」

朝、起きて朝食（カップヌードル）を取り、小屋を出たが、地図を良く見なかったので、中ノ岳山頂が南にあって、往復２０分であることを知らず、反対方向の駒ヶ岳方向に向かってしまった。ここからの登山道はササが道にかぶさり、良く下が見えず歩きづらい。それに、疲れが残っているのか、特に登りで足が前に出ない。前日の歩行かそれ以下である。

中ノ岳から 300m下って、次は 300m登り返して、その後、多少のアップダウンはあるが、比較的なだらかな道で、そんなにきつくはないはずなのに、ゆっくりしか進めない。今日も道の真中で２回（各５分位）も昼寝をしてしまった。もう、目標だった今日中に帰宅どころか、麓の駒ノ湯温泉までも無理である。後は、駒ヶ岳直下の駒ノ小屋が開いているだけが望みである。万一、閉まっていると、今日も夜間歩行を覚悟しなければならない。

確か天狗平辺りからだと思うが、両側のササが刈られていて、急に歩き易くなった。登り坂もゆるくなったこともあるが、こんなに違うのかと思う程、楽に歩けて、程なく駒ヶ岳(2003m)に着いた。CT を４時間もオーバーしての到着である。要するに、時間が２倍掛かったという事である。こんな経験は初めてである。余程疲れが残っていたのであろう。それでも駒ヶ岳からの眺めは最高である。西に、鋸のような岩峰の八海山、南は、今通ってきた中ノ岳からの縦走路、東には、槍ヶ岳の様な尖った山が遠くに見える。いずれも2000m級の山である。

駒ヶ岳から下りる途中で、駒ノ小屋の周りを人が歩いているのが見えて、小屋が開いていることが分かって、ほっとした。小屋には管理人がいて、素泊まりであるが、ビールだけはあった。昨日 12 人いた宿泊者は、今日は私と同年輩の男性だけである。小屋の近くに雪渓があるのか、ホースから冷たい水がじゃあじゃあ流れている。まず、外でビールを飲んだ後、インスタント飯とスープにソーセージを入れて食べた。そして、寝る前にもう１本ビールを飲んで早めに就寝した。

４日目

「駒ノ小屋～小倉山～駒ノ湯～大湯―（バス）―小出―（在来線）―浦佐―（新幹線）―大宮―新宿―本厚木」

冷たいビールを飲んだせいか、昨夜は気持ちよく眠れた。今日はほぼ下るだけだから用心すれば問題はない。もう、カップヌードルはないのでパンの残り１つ食べて出発である。

最初は歩きにくい下りの岩場で慎重に下りる。そこを過ぎると、小倉山(1378m)までは

歩き易いなだらかな下りである。小倉山から駒ノ湯(360m)方面に下りる。しばらくは急坂や鎖場があって気を緩められないが、その後は比較的楽である。それでも、割合傾斜のある坂が長く続く。CT4 時間 20 分を 5 時間掛けて下りた。やはり、いつもの様に足が出ていないのであろう。それでも、駒ノ湯の建物が見えた時は本当にほっとした。これで我が家に帰る事ができると実感した。昨夜、駒ノ湯に泊まっていれば、温泉に浸かり、美味しい料理が出ただろうに残念！

駒ノ湯から大湯まで、１時間歩いて大湯のバス停に出た。ここからは順調に我が家に着いた。

あとがき

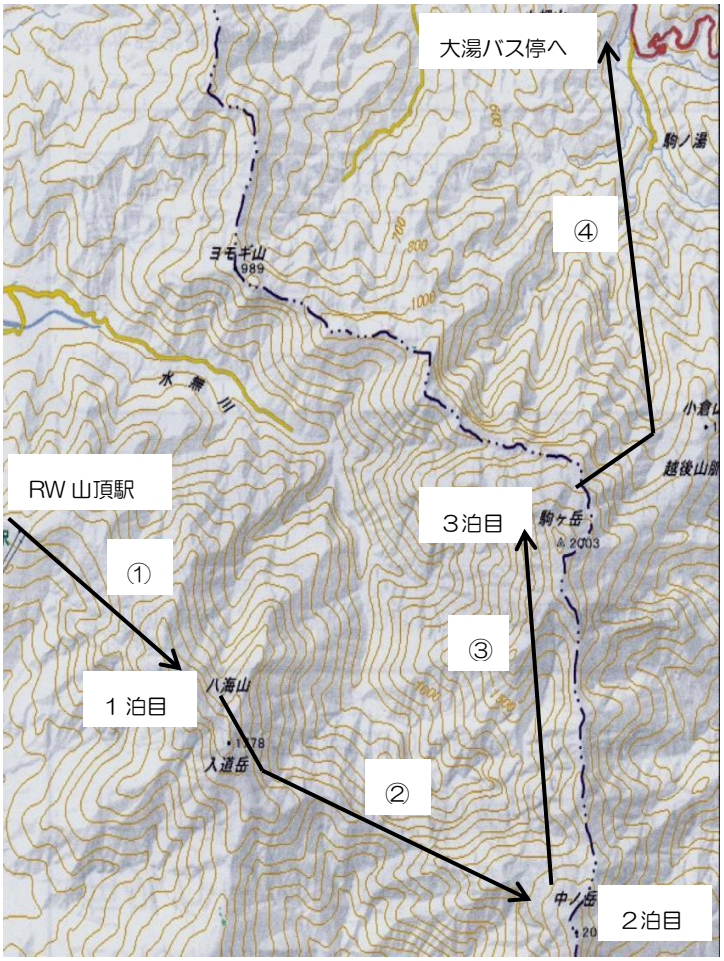
① **帯状疱疹が出た**

帰宅して気付いたが右手肘内側と右肩後部に発疹が出た。肘は虫刺され、肩は転んだ時の傷と思ったが、粒々が１０個程あって何か変なので医者に行くと、帯状疱疹であった。

② **ダニ２匹、発見**

帰宅後、３日目に左膝内側に１匹、４日目に右脇腹後側に１匹、ダニを見付けて取った。でも、ダニってすごいね。３日も４日も寝食を共にして、一緒に風呂まで入っても、まだくっ付いているんだもん。放っておいたら、いつまで一緒にいる気なんだろう？！

それにしても深い山であった。私が知らないだけで、大きく深い山はいくらでもあるという事だ。ただ人が少ない分、整備が行き届かない所もあるし、避難小屋なので食料、寝袋、コンロなどが持参で荷物が重くなるが、反面、静かな山行が楽しめる。それにしても今回の山行、「①お尻の大アザ、②帯状疱疹、③ダニ２匹」が成果とは、何とも情けない話である。



最近の活動

日　時	場　所	内　容	参 加 者
３月25日 ～27日	アミューあつぎ他	あつぎ観光ボランティアガイド協会 養成講座	受講者５名 会員　６名
３月28日	市内５カ所	観光客入込み調査	会員10名
４月　３日	アミューあつぎ	役　員　会	会員　6名
４月10日	アミューあつぎ	定　例　会	会員20名

令和３年４月・５月　行事予定

	日　時	行　事	会場・場所	内　容	申 込 先
４月	24日（土） 13:00～15:00	第17回通常総会	アミューあつぎ	―――	サークルスクエア
５月	２日（日） 09:00～16:00	観光客入込み調査 （雨天時は５月９日）	厚木市内５箇所	募集 10名	サークルスクエア
	８日（土） 09:30～11:20	定　例　会	アミューあつぎ	定員 22名	サークルスクエア
	26日（水） 09:30～12:30	かながわガイド協議会 訪問ガイド	秦野盆地湧水群 秦野の名水さんぽ	３名	サークルスクエア
	28日（金） 10:00～12:00	かながわガイド協議会 総会	小田原市民センター	―――	―――

お願い　行事予定が決まりましたら、阿部あてメールでご連絡下さい。
提出期限は定例会の１週間前（編集会議と印刷のため）

編　集　後　記

巻頭の写真は七沢森林公園です。撮影時には満開であったソメイヨシノは一週間で散ってしまいましたが、市内はまだまだ八重桜などに彩られているなど、次々と花が咲き、目を楽しませてくれます。

NTT ドコモの人の流動データで厚木の様子を見ても人の動きは少しずつ戻ってきているようです。とは言いながら、まだまだ新型コロナは収まっていません。密になることに気を付けながら春を楽しみたいと思います。

編集委員　阿部 啓冊　澤田 正弘　前澤 宣子